# ２０１６年度　「中国　大連・東北部通信」

2017 年 3 月 27 日

**駐大連北九州市経済事務所**
◆所　長　永元　博文　◆副所長　内藤　崇徳
◆副所長　呂　俐
執筆者：内藤　E-mail: fusuozhang@kitakyusyu-dl.com

## ＜駐大連北九州市経済事務所の直近の活動報告＞

今回の「中国　大連・東北部通信」では、2、3 月の活動報告として①「大連現地旅行社セミナー・商談会」②「福岡県人会の開催」③「関原奨学金受給生との面談」をご紹介いたします。

### ①「大連現地旅行社セミナー・商談会」

**【概要】**

3 月 17 日、日本政府観光局（JINTO）北京事務所主催による「大連現地旅行社セミナー・商談会」がホテルニッコー大連にて開催され、セミナー参加及び大連の旅行社計 6 社と商談を行ないました。

**【活動内容】**

今回の会は、第一部はセミナー、第二部が商談会の二部構成でした。

第一部のセミナーでは、JINTO 北京事務所の所長 服部真樹様、中国旅行社総社（大連）有限公司の李 穎様から、「中国人訪日旅行市場の現状と今後の展望」について説明が行なわれました。

**（セミナー要旨）**

・中国人訪日旅行社数は 2016 年 637 万人に増加（対前年比+27.6%）
・訪日外客数に占める中国の割合は 26.5%（つまり 4 人に 1 人は中国からの訪日です。）
・2016 年の中国人観光客の訪問回数のうち 33.7%が複数回の訪日経験があるリピーター。
・中国人観光客の訪日時の興味関心
　1 位：日本食、2 位：ショッピング、3 位：自然景勝地、4 位：繁華街、5 位：温泉
・中国人の購買意欲は以前高いものの、一昨年の「爆買い」は沈静化
　中国人一人当たりの消費額　2015 年：283,842 円⇒2016 年：231,504 円　前年比▲52,338 円
・観光の競合国はタイ、韓国であり、内陸部の都市までも含めた地道なプロモーションを高頻度に実施。

出典：JNTO セミナー「中国人訪日旅行市場の現状と今後の展望」より

また第二部の商談会では、大連の現地旅行社と個別に商談会を行ないました。

**（大連現地旅行社からのヒヤリング内容）**

・中国人に人気がある訪日観光ルートは「東京～富士山～京都～大阪」（いわゆるゴールデンルート）
・上記ゴールデンルートを経験し、日本に好感をもった中国人が 2 度目の訪日旅行で訪れる先が北海道、

沖縄、九州等。

・昨年は、熊本地震後の「九州ふっこう割」の恩恵を受けて、九州ツアーを安く造成することができた。大連から九州は地理的にも近く、手軽に行ける旅行先として定着した。

・直近では、遼寧省・大連の景気が悪いことや、ビザ発給に関する必要書類要件の厳格化（場合によっては要件を満たすために 6 ヶ月程度を要する場合もある）によって集客には苦労している。

**【所感】**

今回のセミナー・商談会を通じて感じたことは、中国人にとって日本と言えば「東京～富士山～京都～大阪」であり、観光地としての北九州・福岡・九州の知名度はまだまだ低いことです。（ただし、大連市と北九州市は 1979 年に友好都市締結をし、歴史も長く、好意的な方が多いのも事実です。）一方で、観光地としての九州を考えると、「日本食・自然景勝地・温泉」を兼ね備えており、東京・大阪とはまた違った魅力を有していると感じます。実際、昨年 10 月から北九州-大連空港直行便が運航しており、高い搭乗率を記録、多くの中国人観光客の方に訪日いただいています。（詳細は 2 月 24 日発行の中国　大連東北部通信をご参照ください。）

また、セミナーの中で、観光先として競合するタイ、韓国は、内陸部の都市までも含めた地道なプロモーションを高頻度に実施しているとのことでした。今回、商談を行なったある旅行社は、個人客向けに「観光地の PR セミナー」を行なっているとの情報を入手し、当事務所の参加を快諾いただきました。そういったセミナー・その他イベント等 PR 活動を通して当事務所も積極的に情報発信を行っていきたいと思います。

**（商談会の様子）**

## ②「福岡県人会の開催」

**【概要】**

福岡にゆかりがある方々が集まる「大連福岡県人会」を 2 月 17 日に、大連市内の日本料理店にて開催しました。大連福岡県人会は 20 年以上の長い歴史がある会です。会員は福岡県出身者・福岡県に本社がある企業の駐在員の方々を中心に 120 名程度が在籍しており、大連市内でも一、二を争う規模です。もちろん、北九州にゆかりがある方も多数参加しています。

懇親会は飲食をしながらの和やかな雰囲気で進み、最後はくじ引き大会を行ないました。景品は各会員が持ち寄った食品や日用品等で、当りくじが発表される度に会場内は歓声が起こっていました。

**【所感】**

私は昨年 10 月に赴任して、今回初めて「大連福岡県人会」参加させていただきました。

私自身これまで福岡県を出て生活したことがなかったため、「県人会」という名前を聞いたことはあるものの、活動内容についてはこれまで知る機会がありませんでした。イメージとしては、地方出身者が上京して参加するものだと思っていましたが、ここ大連にも多くの「県人会」が存在しおり、「福岡県人会」もその一つです。各会では、定期的に懇親会を開催しており、日本から離れた土地で同郷の人々で集まることができる安心感や、業種・年齢を超えた方々との交流や情報交換ができることは大きな利点だと思います。また、福岡県人会には福岡県にゆかりのある中国人の方も入会しており、日中交流の側面も持ち合わせているように感じました。

**（福岡県人会の集合写真）**

## ③「関原奨学金受給生との面談」

**【概要】**

3 月 15 日、北九州国際交流協会の担当課長と大連外語大学を訪問し、関原奨学金の受給生と面談を行なうとともに、奨学金設立の経緯、大連市と北九州市友好の歴史、北九州市の市政概要について受給生の方々に説明を行ないました。

学生からは「奨学金設立の経緯を知ることができてよかった。」、「今後は学んだ日本語を活かした職に就いて、中国と日本に貢献したい。」との声が聴かれました。なお、北九州国際交流協会のホームページ内で奨学金受給生が書いた「日本語の学習について、今後の進路、北九州市への思い」をテーマにした作文を後日公開する予定になっておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

**【関原奨学金について】**

関原奨学金は、故・関原一夫・貞子ご夫妻の遺志により設立された「関原北九州大連友好基金」の運用益を基にして、選考で選ばれた①「大連にゆかりのある北九州市内の大学・短大等に在籍する留学生」もしくは②「大連市内の大学で、日本語を学んでいる中国人学生」に対して奨学金を支給しています。1992 年の設立以降、多くの学生を支援してきました。

**【所感】**

大連には日本語を学んだ方々が多く在住しています。日本に対する興味を持った人材、日本語学習を通じて日本の文化・慣習を理解した人材が中国・大連にいることは、日本の企業・自治体が海外で活動する際に大きな強みになると感じます。逆に日本人が海外で活動する際や、海外からの人材を受け入れるにあたっては、言語のみならず、文化・慣習への深い理解と尊敬が必要だと思います。しかしながら、こうした相互理解は一朝一夕に醸成できるものではありません。当事務所も日本と中国、北九州と大連の懸け橋となれるよう、これまで以上に尽力いたします。

**（面談の様子）**